

◎栽培履歴の記帳を必ず行いましょう。

令和4年産

大豆栽培こよみ

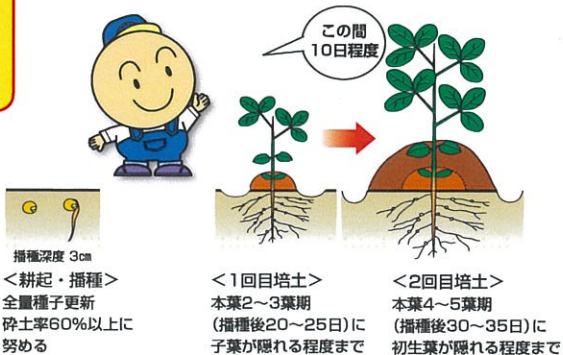
- 射水市農業技術者協議会
- 射水市 ● J A いみず野
- 富山県高岡農林振興センター

目標

単収：250kg以上/10a
1～3等比率：80%以上
大粒比率：80%以上

重点ポイント

1. 排水対策の徹底
2. 有機物の積極的施用
(ヘアリーベッチ・発酵ケイフン)
3. 適期2回培土の実施



<大豆を加害する害虫類>



<収穫時期の判定の目安>



- ◆ 英色が褐色になれば成熟期
- ◆ 高水分粒が殆どなくなり9割以上の英が褐色になれば収穫可能
- <黒根腐病拡大防止策>
(1)大豆(えだめ含む)の作付間隔の延長、田畑輪換
(2)排水対策の徹底
(3)畦立播種の実施
(4)播種時期は5月26日以降とする(早い播種は発生を助長)
(5)ヘアリーベッチすきこみほ場は基肥を必ず減肥する。
(6)発生ほ場での作業後の機械洗浄

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月								
	下旬	中旬	月上旬	下旬	中旬	月上旬	下旬	中旬	月上旬	下旬	中旬	月上旬	下旬	中旬	月上旬	下旬	中旬	月上旬	下旬	中旬	月上旬						
生育ステージ	発芽			生育期			開花期			英伸長期			子実肥大期			黄葉期			落葉期			成熟期					
主な作業	排水対策			土づくり			除草剤散布			1回目培土			2回目培土			2回目除草剤散布			1回目防除			2回目防除			収穫		

(土づくり)
・次年度大豆作付予定のヘアリーベッチを作付しましょう。

<排水対策>

- ・前年秋又は遅くとも4月までに額縁及び基幹排水溝設置
- ・心土破碎等透水性向上

排水手順

- ①水口はしっかり止める
- ②額縁排水溝は早めに設置する
- ③排水口は深く掘り下げる

④サブソイラなどによる心土破碎
⑤播種直後に基幹排水溝を設置
⑥排水溝は確実に接続

<土づくり>

- ・土壌pH6.0～6.5に矯正
- ・有機物の積極的施用
- ・ヘアリーベッチの利用

資材名 10a当り施用量

石灰質資材	100kg以上
発酵ケイフン	100～150kg

※地方が高く、発酵ケイフンを使用した場合は基肥施用量を1～2割減らす。
※ヘアリーベッチをすきこんだ場合は0～15kg/10aとする。

(施肥例)

項目	資材名	10a当り施用量
基肥	BB基肥084	単作 30kg 兼作 40kg
基肥(一発)	LPS大豆専用	単作 25kg 兼作 30kg

<適期の2回培土実施>

- ・株元にしっかりと土をかける。(上部イラスト参照)
- ・培土後は必ず溝と排水口を連結する。

<雑草対策>

- ・播種後速やかに散布する
- ・大豆は露出しないよう覆土する

薬剤名	10a当り散布量
トレファンサイド粒剤2.5	5～6kg
トレファンサイド乳剤	200～300ml+水100ℓ
プロールプラス乳剤	400～600ml+水100ℓ
ラクサー乳剤	

・イヌホオズキ類、ヒユ類の多発ほ場では、プロールプラス乳剤又はラクサー乳剤を使用する。

<畦間かん水>

- ・開花後～50日の干ばつ防止の為、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- ・ほ場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

<病害虫対策>

◆基本防除

防除時期	粉剤体系		液剤体系		空散	
	薬剤名	10a当り散布量	薬剤名	希釈倍率	薬剤名	希釈倍率
7月下旬まで	Zボルドー粉剤DL	4kg	Zボルドー液剤	500倍	-	-
8月上旬	①トライトレボン粉剤DL ②カメムシ類・マメシジミ類・アブラムシ類	3kg	ダントツフロアブル ①カメムシ類・アブラムシ類 ②プラダム乳剤25	2,500倍 3,000倍	ダントツフロアブル ①カメムシ類・アブラムシ類 ②プラダム乳剤25	24倍 16～24倍
8月中旬	①Zボルドー粉剤DL ②カメムシ類・マメシジミ類・アブラムシ類	4kg	①トレボン液剤 ②アミスター20フロアブル	1,000倍 2,000倍	①アミスタートレボンSE ②カメムシ類・マメシジミ類・アブラムシ類	8倍

◆随時防除

病害虫の種類	薬剤名	希釈倍率	10a当り散布量
萎疫病	フェスティバルC水和剤	600倍	150～300ℓ
ウコンノメイガ、マメシジミ、ハスモンヨトウ	ブレバソフロアブル5	4,000倍	100～300ℓ
ウコンノメイガ、マメシジミ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、カメムシ類	ダントツ粉剤DL	-	3～4kg (20シジミイタ)
マメシジミ類、ハスモンヨトウ等	①トレボン粉剤DL ②トレボン液剤	- 1,000倍	4kg 150ℓ

※トレボンの使用回数は2回以内

<播種作業>

- ・消毒(クレーサーMAXX)済種子を使用
- ・対象病害虫 茎疫病、フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類
- ・栽培本数確保の為、えんれいのそらはB-22、シュウレイはB-33を使用
- ◆品種別、播種時期別の栽培本数及び播種量の目安

品種	播種時期	栽培本数(本/10a)	播種量の目安(kg/10a)	使用目録
えんれいのそら	5月26日～6月上旬	14,000～18,000	5.5～6.3	B-22
	6月中旬	16,000～18,000	6.3～7.1	B-22
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	5.3～6.6	B-33
	6月中旬	15,000～18,000	6.6～7.9	B-33

※大粒の百粒重：えんれいのそら35.6g、シュウレイ39.4gとして算出。

<イヌホオズキ類の防除体系>

防除時期	防除方法	薬剤名	10a当り散布量	注意
生育期	全量散布	ボルトフロアブル	200～300ml+水100ℓ	・散布は1回のみ ・イヌホオズキ類は30日前まで ・収穫30日前まで
生育期	株間・畦間散布	大豆バサグラン液剤	100～150ml+水100ℓ	・散布は1回のみ ・大豆バサグラン液剤は播種前まで ・収穫45日前まで
生育期	株間・畦間散布	ロロックス	100～200ml+水100ℓ	・大豆3葉期～収穫30日前まで ・散布は1回のみ ・株間は(大豆にはかけない) ・株間処理(大豆の葉にはかけない)
生育期	雑草全般(開化アサガオ類等含む)	ザクザク液剤	500ml+水100ℓ	・収穫28日前まで3回以内 ・株間散布(大豆にはかけない) ・株間処理(大豆の葉にはかけない) (バスターのみ本葉5葉期以降) ・ザクザク、バスターの散布回数は両方合わせて3回以内